



生涯、相性のいい人はいないのかもしれない。夫婦や親子もどこかで仲たがいをする。それをうまく治めて生きる人もいる。それを教養というのかもしれない。なにも、高学歴の人が教養があるとは限らないのであ

る。わたしは、これも祖母から教わったような気がする。

友情を保つにはふたつの秘訣があるという。ひとつは、利害関係がないことである。どんな些細な貸し借りも友情には弊害が生じるといふ。利害関係は主

した。ところが、恋文を託された友人が、その女の人と仲がよ

くなつた。友情どころの騒ぎではない。いざとなると友情は脆いものなのである。やはり、君子の交わりがいらしい。わたしにも経験がある。ある

を生む。ある種の愛情を持つて「あいつはさあ」といったとしても、言葉だけでこういつてい

たと伝わると、愛情が憎しみだけの「あいつはさあ」になっていたりする。心情が通じてない。それで友情は破滅である。

か」と考えてしまう。「悪口陰口はいうよりいわれる人になれ」といったのは祖母

である。星鹿の祖母の旅籠には県の偉い人から行商人までも泊まった。祖母はどの人にも対応を変えなかった。そして、どの人のお膳にも酢の物の小鉢をひとつつけた。「こいはあなただけですけん」。どの時代も人は「あなただけよ」に弱い。

## 友情保つ秘訣あり

従の関係ともなる。付かず離れずの関係が友情を継続させることらしい。もうひとつの秘訣は、同じ女の人を好きにならないことである。遠い昔、青春時代の友情の話である。ある男が、友人に好きな女の人への恋文を託

友人を信頼していた。わたしはその人にプライベートなことはもちろん、他の友人のことを話した。褒めたり貶したりである。ところが、その人はわたしの話のすべてを、その友人にしゃべ

友人を信頼していた。わたしは言い訳はすればするほど誤解を招く。わたしにべらべらと人の悪口をいったり、告げ口をしたりする人がいる。みにくい顔になっていく。聞きながら「この人は違う人には、俺のこともこんな風にしゃべっているの

祖母は「あなただけよ」を駆使して生きた。行商人はたばこのしんせいをピースの箱に移し変えていた。あれはなんだったのだろうか。祖母も、よっぽどひどい悪口をいわれた覚えがあるのかもしれない。